

新しい薬学をめざして

Vol. 54 No. 3
2025.4.1

発行 新薬学者集団
〒555-0024 大阪市西淀川区野里3丁目6-8
一般社団法人大阪ファルマプラン 気付
TEL 06-6477-8088 (担当 廣田) FAX 06-6477-8090
E-mail sigma-info@faruma.co.jp
郵便振替口座 01090-8-16463
URL http://pha.jp/shin-yakugaku/



ミニゼミ報告

サプリメントと薬 紅麹は何が問題だったのか

藤竿伊知郎

1. 初めに

2024年3月22日に発覚した紅麹サプリメント（図1）による腎障害は、機能性表示食品制度の問題点を浮き彫りにしました。

政府は、青カビの混入による食中毒事件として、早期に幕引きしようとしています¹⁾。しかし、腎障害を起こしたとするカビ毒（ペベルル酸）の90日毒性試験はまだ手がつけられていません。毒性が発現する量と被害者が実際に摂取した量、混入経過の解明には時間が需要です。

そもそも、医薬品成分を濃縮したサプリメントが、食品として販売されていたことが問題です。機能性表示食品は「健康な人が健康を維持するために利用する」という建前であり、安全性確認が緩くなっています。紅麹サプリメント事件では基礎疾患を持つ高齢者が被害を受けており、リスクの高い人への注意喚起が不十分でした。

この間、著者は情報発信に努めてきました³⁾。今回、2025年1月26日に開催された新薬学者集団ミニゼミの講演内容を整理しました。まずは紅麹問題の背景にある健康食品の基本知識と歴史について述べたいと思います。

2. 健康食品をめぐる動き

(1) 食薬区分

目 次

□ミニゼミ報告「サプリメントと薬 紅麹は何が問題だったのか」 藤竿伊知郎 ····· 55	□エッセイ 要介護3と要支援2の二人（その10） 三原啓子 ····· 85
□福島のいま（その102） 佐藤政男 ····· 67	□玉枝の平和だよりから（31） 黄慈恵さんの韓国レポートから 長瀬文雄 ····· 89
□医薬品等行政評価・監視委員会の活動内容（その11-2） 里見佳子, 緒方信明, 野村充代, 寺岡章雄 ····· 72	□2024年度第6回運営委員会報告 三原啓子 ····· 91
□エッセー “一人ぶつぶつ思うこと”（9） 工藤克己 ····· 83	□2024年度第7回運営委員会報告 三原啓子 ····· 92
	□水谷民雄氏追悼文集のお知らせ ····· 94